

令和5年度開講 現3年生対象演習一覧

※曜日・時限は予定ですので、変更になる場合があります。

	科目名	担当者	曜日	時限	テーマ
上代	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	土佐 秀里	木	5	万葉集の物語性と歴史性
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	谷口 雅博	木	5	上代の神話・説話を読む
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	上野 誠	火	3	『万葉集』の風土論的研究
中古	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	太田 敦子	木	4	『源氏物語』「若菜下」巻を読む
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	塚原 明弘	木	6	『源氏物語』のことばと歴史的背景
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	竹内 正彦	金	6	『源氏物語』「賢木」巻を読む
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	津島 知明	月	3	『枕草子』を読み味わう
中世	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	荒木 優也	火	4	『古今和歌集』『新古今和歌集』を読む
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	荒木 優也	木	6	『百人一首』を古注釈で読む
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	野中 哲照	火	6	中世散文の研究
近世	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	岩崎 雅彦	火	6	浄瑠璃の研究
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	中村 正明	火	3	黄表紙を読み解く —江戸の庶民文化と文学—
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	中村 正明	木	6	明治初期文学を読み解く —仮名垣魯文と新聞小説—
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	藤川 雅恵	未定	未定	
近代	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	石川 則夫	月	3	近現代文学の作品研究 (★)
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	井上 明芳	金	6	横光利一研究 (★)
近現代	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	井上 明芳	金	5	森敦研究
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	鬼頭 七美	月	2	明治文学を読む
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	岡崎 直也	月	4	堀 辰雄の文学

※★印の科目は、原則として卒業論文履修者が履修することができる。

科目名	担当者	曜日	時限	テーマ
日本語学演習Ⅱ	仁科 明	月	4	中古日本語の研究
日本語学演習Ⅱ	富岡 宏太	月	4	中古日本語の研究
日本語学演習Ⅲ	吉田 永弘	木	6	中世日本語の研究
日本語学演習Ⅲ	諸星 美智直	木	3	ⅢAビジネス言語学（文書・会話の語彙・語法）とⅢB近代敬語の研究
日本語学演習Ⅲ	三井 はるみ	火	6	社会言語学文献講読と調査研究
伝承文学演習Ⅱ	飯倉 義之	金	4	現代の伝承・都市民俗を調査・研究する
伝承文学演習Ⅱ	八木橋 伸浩	水	2	現在学としての民俗学の実践的演習
伝承文学演習Ⅱ	菊池 建策	火	5	記録から読み取る生活
伝承文学演習Ⅲ	大石 泰夫	金	3	祭りと民俗芸能についての研究方法を学ぶ
伝承文学演習Ⅲ	松尾 恒一	木	2	祭礼・芸能文化、年中行事、民間信仰・民俗宗教の調査と研究法
伝承文学演習Ⅲ	高久 舞	水	2	民俗芸能研究の方法の修得と民俗芸能の現代的課題を考える
伝承文学演習Ⅲ	鈴木 明子	金	6	絵図資料に見る芸能と伝承
伝承文学演習Ⅳ	大楽 和正	火	6	民俗研究の方法 ー比較研究法を修得するー
伝承文学演習Ⅳ	伊藤 慎吾	月	5	伝説・怪異伝承と地域社会
伝承文学演習Ⅳ	服部 比呂美	金	3	民俗の比較研究法を学ぶ
日本語教育学演習Ⅰ	菊地 康人	月	2	日本語教育を通して日本語を見つめる
日本語教育学演習Ⅱ	菊地 康人	金	6	日本語教育を通して日本語を見つめる
言語学演習	諸星 美智直	火	6	福祉言語学（手話と点字）の研究
言語学演習	新井 小枝子	火	2	方言語彙の記述と考察
表現文化演習Ⅱ	野村 ひかり	金	5	漢字書道一名品の表現を学ぶー
表現文化演習Ⅲ	川口 晴美	木	3	日本語で書かれたさまざまな詩を読み、自分でも詩を書く。

日本文学科 現3年生

令和5年度開講「演習」仮シラバス

【日本文学演習】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる場合があります。

科目名		担当者	曜日	時限	ページ
上 代	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	土佐 秀里	木	5	4
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	谷口 雅博	木	5	5
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	上野 誠	火	3	5
中 古	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	太田 敦子	木	4	6
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	塚原 明弘	木	6	6
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	竹内 正彦	金	6	7
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	津島 知明	月	3	7
中 世	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	荒木 優也	火	4	8
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	荒木 優也	木	6	8
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	野中 哲照	火	6	9
近 世	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	岩崎 雅彦	火	6	10
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	中村 正明	火	3	10
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	中村 正明	木	6	11
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	藤川 雅恵	未定	未定	11
近 代	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ (★)	石川 則夫	月	3	12
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ (★)	井上 明芳	金	6	12
近 現 代	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	井上 明芳	金	5	13
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	鬼頭 七美	月	2	13
	日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	岡崎 直也	月	4	14

※★印の科目は、原則として卒業論文履修者が履修することができる。

【上代文学】

【科目名】 日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】 木曜
【時限】 5限	
【教員名】 土佐 秀里	
【テーマ】 万葉集の物語性と歴史性	
<p>(演習内容)</p> <p>この演習は『万葉集』を研究するものですが、日本文学演習Ⅰの古典分野(上代・中古・中世・近世)を履修していることが前提になっています。また編入生の場合は、短大等で万葉集または上代文学に関する演習・講義を履修していることを必須とします。毎年途中で脱落する編入生が多いので、この点は特に注意してください。この演習Ⅱは、日本文学科の3年生として当然備えているべき文学史的知識と古典文法の知識が、十分に備わっていることを前提に開講しています。その前提が欠けている人は、まずは「演習Ⅰ」を履修してから、この演習Ⅱに進んでいただきたいと思います。</p> <p>この演習の大きなテーマは、①万葉集の歌を、物語を読むようにして読む、②万葉集の歌の歴史的背景を考えて読む、というものですが、演習発表そのものは、それぞれの発表者が個別に具体的なテーマを設定し、それに見合った具体的な作品を精読してゆくことになります。個別のテーマ設定と作品選択についてはいくらかでもアドバイスしますが、「作品を読む」という要素がないものは発表として認められません。また、その読み方が既存の注釈書等に頼っただけの「浅い」ものであれば、評価はできません。最初の授業でこの演習の方針を示しますので、その趣旨を十分に理解して発表を行ってください。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>①最初の授業に出席し、演習の趣旨を理解していること。②日本文学科3年として持っていないとまらない文法知識や文学史知識が備わっていること。③概説や理論ではなく、具体的な作品を考察の対象とし、その分析を行っていること。④発表資料の密度と分量が一定以上であること。内容のない水増しはマイナス評価となる。⑤他人の受け売りではない、自分なりの着眼点や考え方が示されていること。⑥質疑応答に対し、その場で考え、答えること。⑦「文学」であることの意味と、その面白さについて十分に考えていること。以上の七項目の観点から、発表資料・発表内容・質疑応答を総合的に評価する。</p>	

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】木曜
	【時限】5限
【教員名】谷口 雅博	
【テーマ】上代の神話・説話を読む	
(演習内容)	
『古事記』(中・下巻)、「風土記」等に記載された神話・説話を対象とし、学生の発表を中心に据えて授業を行う。本文の的確な読みを検討した上で、古代的な論理・信仰・習俗などの背景について考えつつ、新たな読みを模索していく。	
上代の文献には本文・訓読に問題のある箇所が多く、また解釈も定まっていない話が多い。まずは本文批判を徹底し、その上で各神話・説話の検討を行う必要がある。従って、本文などを確定する一回目と、内容を検討する二回目とに分けて発表を義務付けることになる。	
(評価方法)	
発表資料・発表内容・質疑応答	50%
学年末レポート	50%

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】火曜
	【時限】3限
【教員名】上野 誠	
【テーマ】『万葉集』の風土論的研究	
(演習内容)	
『万葉集』の歌々の表現が、風土とどのように結びついているのか、結びついていないのか、具体的に考えてゆきます。明日香とはどんなところなのか、平城京は都としてどのように表現されているのか、吉野の離宮はどういう構造を持っていたのか。そういった諸問題を具体的に考えてゆきます。いわば万葉小旅行のようなかたちをとりながら、風土と文学の関係を考える授業となるはずです。歴史学、考古学、民俗学などの知識を動員して考察を進めてゆきます。本年度は、巻6、7、8、9を中心にします。卒業論文を提出する人は、できるだけこの演習を履修するようにしてください。必ずプラスになるはずです。	
(評価方法)	
授業での取り組みを重視し、発表も加味して評価をします。学習への取り組みも大切なのですが、学習を楽しむ心が必要だと私は考えています。	
研究小レポート 50%、授業での取り組み(質疑応答、参画、授業時提出物) 50%	

【中古文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】木曜
	【時限】4限
【教員名】太田 敦子	
【テーマ】『源氏物語』「若菜下」巻を読む	
(演習内容)	
『源氏物語』「若菜下」巻の輪読を行い、研究方法の修得と作品の理解を目指します。発表担当者は、担当する場面の諸注釈整理・鑑賞・考察に基づいた現代語訳を発表し、質疑応答に臨みます。『源氏物語』第二部世界の読解には、第一部・第三部世界の理解が欠かせないため、物語全体を意識しながら第二部世界「若菜下」巻を輪読します。	
(評価方法)	
口頭発表 (60%)、口頭発表に基づくレポート (20%)、積極的な授業への参加態度 (20%)	

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】木曜
	【時限】6限
【教員名】塚原 明弘	
【テーマ】『源氏物語』のことばと歴史的背景	
(演習内容)	
受講者の発表と教員の講評により、『源氏物語』を読み進めていく。1人、年2回程度の発表を課す予定。求める内容は、音読・現代語訳・諸注による解釈の問題点・研究鑑賞。自分で感じ、考え、調べたことを出発点にして、作品を深く味わい、洞察する力を身につけたい。今年の対象は、「少女」巻後半から「玉鬘」巻前半。夕霧と雲居雁の恋、五節の舞姫、朱雀院行幸、六条院造宮、春秋くらべ。玉鬘の消息、大宰府、大夫監、上京、初瀬詣で。物語は新たな段階を迎える。歴史知識や言語感覚が理解を確実にする。本文の表現に立脚しつつ、歴史や民俗に配慮することによって、読みを深めて行く。ここでの分析や議論によって、受講者の読みを鍛え、問題意識や独自の視点を醸成する。レポートや卒業論文だけでなく、世界の見方につながる。	
(評価方法)	
出席 30%・発表 35%・年末のレポート 35%による。年末のレポートは、発表で扱った内容を発展させてまとめるのが希望。	

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】金曜
	【時限】6限
【教員名】竹内 正彦	
【テーマ】『源氏物語』「賢木」巻を読む	
<p>(演習内容)</p> <p>『源氏物語』「賢木」巻を対象として輪読を行う。発表担当者が担当範囲について、諸本の異同、諸注釈、現代語訳、調査・研究といった項目にわたって資料を使いながら発表し、その後、受講者相互の討議を行うことによって、『源氏物語』を読み深めるとともにその研究方法を学んでいく。口頭発表は各学期にそれぞれ1回を予定。各学期末にはレポートを課す。『源氏物語』は、調べれば調べるほど、奥深い世界を見せてくれる。受講生の積極的な取り組みが期待される。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表資料・発表内容60% レポート20% 授業への取り組み状況20%</p>	

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】月曜
	【時限】3限
【教員名】津島 知明	
【テーマ】『枕草子』を読み味わう	
<p>(演習内容)</p> <p>『枕草子』の様々な章段を読みながら、その魅力を味わっていきます。担当範囲を割り当て、調べてきた結果を口頭発表してもらいます。質疑応答を経て、さらに各自で問題点を深めてもらいます。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>平常点100%</p> <p>発表内容およびコメントの提出状況で評価します。</p>	

【中世文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】火曜
	【時限】4限
【教員名】荒木 優也	
【テーマ】『古今和歌集』『新古今和歌集』を読む	
<p>(演習内容)</p> <p>本演習では、ⅡA・ⅢA(前期)において『古今和歌集』、ⅡB・ⅢB(後期)において『新古今和歌集』を対象とした発表を行うことで、古典和歌の理解、研究方法の獲得をめざす。履修者は、前期・後期にそれぞれ指定される和歌を必ず担当し、『新編国歌大観』を用いながら歌語の解釈、歌の考察を行う。そして、前期・後期の学期末にそれら発表をまとめ直したレポートを提出することを義務とする。</p> <p>教科書は、小町谷照彦 訳注『古今和歌集』(ちくま学芸文庫)を用いる予定である。</p> <p>また、和歌を研究するには多くの知識が必要となるため、「日本時代文学史Ⅰ」(木5荒木担当)の受講もお願いしたい。</p> <p>なお、卒業論文で荒木を指導教員に選ぶ可能性がある者は、履修することが望ましい。</p>	
(評価方法)	
発表資料・発表内容 50% 授業参加(質疑応答) 20% 学年末レポート 30%	

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】木曜
	【時限】6限
【教員名】荒木 優也	
【テーマ】『百人一首』を古注釈で読む	
<p>(演習内容)</p> <p>『百人一首』は、藤原定家の撰とされてきたが、昨今の研究においては否定されている。ただし、定家撰でなくとも日本文化に及ぼした影響が大きいことに変わりはない。</p> <p>履修者は、前期・後期にそれぞれ指定される『百人一首』の和歌を必ず担当し、古注釈の比較検討、歌語の解釈、考察を行う。そして、前期・後期の学期末にそれら発表をまとめ直したレポートを提出することを義務とする。</p> <p>教科書は、『百人一首古注抄』(和泉書院)を用いる予定である。</p> <p>また、和歌を研究するには多くの知識が必要となるため、「日本時代文学史Ⅰ」(木5荒木担当)の受講もお願いしたい。</p> <p>なお、卒業論文で荒木を指導教員に選ぶ可能性がある者は、履修することが望ましい。</p>	
(評価方法)	
発表資料・発表内容 50% 授業参加(質疑応答) 20% 学年末レポート 30%	

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】火曜
	【時限】6限
【教員名】野中 哲照	
【テーマ】中世散文の研究	
<p>(演習内容)</p> <p>中世散文の領域で、学生各自がテーマを持ち、それについてとことん調べ、読みこんで深く掘り下げて、研究発表をします。説話の人、軍記の人、日記・紀行の人、随筆の人など。作品ではなく、古典世界の文化論、時代社会論でも構いません。中学校・高校の頃、「押し付けられる勉強ではなく、自分の好きなことを研究したい」と思っていませんでしたか？ 今こそ、それを実現しましょう。ここでの発表に、決まった「型」もありません。</p> <p>卒論履修の人はその中間報告をしても構いませんし、卒論の研究余滴（脱線編、スピノフ）でもよいです。非履修の人（新4年生）は中世散文の中から自由にテーマを選び、いわゆる「学術的な方法」にこだわらず、説得力だけをめざして研究発表してみてください。この授業で目指すのは、学生の主体性と問題解決能力の獲得です。そのために、押し付けられたものではなく、自分の問題意識に沿って何かを深めてみましょう。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>平常点（出席点、授業時のレポートや研究発表） 定期試験は行わない。</p>	

【近世文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】火曜
	【時限】6限
【教員名】岩崎 雅彦	
【テーマ】浄瑠璃の研究	
(演習内容)	
浄瑠璃の作品『田村麿鈴鹿合戦』を扱う。浄瑠璃は近世に新しく生まれた語り物で、三味線の演奏とともに語られた。 『田村麿鈴鹿合戦』は、坂上田村麿（さかのうえのたむらまろ）の鬼神退治を題材とする物語で、室町時代の御伽草子『田村の草子』などをもとに、新たに創作を加えて作られた作品である。 授業は個人発表の形で、本文の注釈と現代語訳および考察を行う。	
(評価方法)	
各回の発表の内容、および期末レポートで評価する。欠席は原則として認めない。	

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】火曜
	【時限】3限
【教員名】中村 正明	
【テーマ】黄表紙を読み解く ―江戸の庶民文化と文学―	
(演習内容)	
黄表紙は、江戸時代中期に始まる草双紙の一時期（安永～文化期）を指す呼称で、滑稽と奇趣、うがちと通人性に満ちた絵入り読み物である。絵が大きく描かれ、その余白に文章が書き込まれるという特異な性質を持った文学ジャンルであり、江戸庶民に広く受け入れられた。そのため、黄表紙には当時の人びとの生活・風俗・文化がいきいきと描き出されている。本演習では、そうした多種多様な江戸の時代層を読解し自ら調査・発表することを第一義とする。また、それだけでなく、近世文学独特の表現を把握・考察することにも重点を置きたい。そのことが黄表紙の理解のみならず、深く江戸時代の文学全体の理解へと繋がることにもなるだろう。 黄表紙の代表的な作品数種（『金々先生栄花夢』『無題記』など）を扱う予定。 近世文学で卒業論文を執筆する学生、執筆しようと考えている学生は、特に本演習を履修するようにして下さい。	
(評価方法)	
演習発表 60%、授業参加（質疑応答）30%、レポート 10%。	

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】木曜
	【時限】6限
【教員名】中村 正明	
【テーマ】明治初期文学を読み解く ―仮名垣魯文と新聞小説―	
(演習内容)	
<p>本演習で扱う明治初期というのは、明治初年代から十年代を指しており、近代文学成立期に当たる。近世文学から近代文学へと移行する端境期に当たるこの時期の文学は、政治の鳴動と社会・文化の変化を直接的に反映するものが多いと言えよう。</p> <p>本演習では、江戸・明治の両時代に跨って活躍した戯作者であり、新時代のジャーナリストである仮名垣魯文の作品を扱う。特に魯文が主幹であった小新聞『かなよみ』の雑報記事をもとに文芸化された『高橋阿伝夜刃譚(たかはしおでんやしやものがたり)』(明治十二年刊)を読むことにしたい。本作は、実際の事件として話題となった、毒婦と呼ばれた女性高橋お伝による殺人事件を題材とした実録小説である。そこに見られる明治開化期の人間像や新時代の文化風俗が文学作品としてどう描き出されているか、丹念に拾い出して読解することを主眼としたい。</p> <p>大局的には、こうした明治初期の新時代文学への胎動を、各受講者が自ら捉え考えていくことになるだろう。作品をしっかりと読み込んで授業に臨んでほしい。</p> <p>明治初期文学で卒業論文を執筆する学生、執筆しようと考えている学生は、特に本演習を履修するようにして下さい。</p>	
(評価方法)	
演習発表 60%、授業参加(質疑応答) 30%、レポート 10%。	

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】未定
	【時限】未定
【教員名】藤川 雅恵	
【テーマ】	
(演習内容)	
(評価方法)	

【近代文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ（★）	【曜日】月曜
	【時限】3限
【教員名】石川 則夫	
【テーマ】近現代文学の作品研究	
<p>（演習内容）</p> <p>4年生のみ履修可（4年次に演習Ⅱとして履修する者も含む）</p> <p>原則として石川則夫を指導教員とする卒業論文履修者（4年生）を対象とするが、今年度は6名だけなので、卒論非履修者も14名以内で履修可。前期は各自の対象作品における先行研究論文の紹介と批判検討を發表し、夏期休暇中に「先行研究史」を作成し、提出。後期は、本論の途中経過報告を發表してもらおう。卒論非履修者の場合は、第1回授業時までには作家と作品（自由選択）を決定しておくこと。</p>	
<p>（評価方法）</p> <p>前期發表を踏まえて作成する「先行研究史」。後期の卒論作成、提出を踏まえて後期末に卒論提出後の課題点をレポートとして提出してもらおう。当然であるが、本演習の評価と卒論評価は別である。</p>	

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ（★）	【曜日】金曜
	【時限】6限
【教員名】井上 明芳	
【テーマ】横光利一研究	
<p>（演習内容）</p> <p>本演習では、新感覚派の旗手と言われた横光利一の文学について、その表現を中心に考察する。前期は「春は馬車に乗って」「機械」などの短編小説を取り上げる。後期は「上海」「紋章」などの中編小説を取り上げる。</p> <p>前期後期を通じてグループ發表をしてもらおう予定である。發表は原則的に先行研究を紹介し研究史を概括した上で、独自の見解を提示する。その發表内容をめぐって質疑応答を行う。近代文学史上、表現にこだわった新感覚派の文学を通して、文学の表現への深い理解を目指す。</p>	
<p>（評価方法）</p> <p>演習發表（資料内容・口頭發表の内容・姿勢等）50% レポート（前期25%後期25%）50%</p>	

【近現代文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】金曜
	【時限】5限
【教員名】井上 明芳	
【テーマ】森敦研究	
<p>(演習内容)</p> <p>森敦文学を取り上げて、構造的な読みの方法を実践的に試みる。前期は「月山」を取り上げ、生成論的な視点を加えて構造的に徹底した読解を試みる。後期は「月山」と対応関係にある「鳥海山」について、構造的な考察を深める。</p> <p>前期・後期を通じてグループ発表をしてもらう予定である。発表は原則的に先行研究を紹介し、研究史を概括した上で、独自の見解を提示する。その発表内容をめぐって質疑応答を行う。これらを通じて卒業論文制作の方法を身につけることを目指す。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>演習発表(資料内容・口頭発表の内容・姿勢等)50% リポート(前期25%後期25%)50%</p>	

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】月曜
	【時限】2限
【教員名】鬼頭 七美	
【テーマ】明治文学を読む	
<p>(演習内容)</p> <p>明治文学のなかでも異彩を放つ文豪、泉鏡花を中心に取り上げる。泉鏡花の作品は、難解な言葉遣いと幾重にも入り組んだ語り口により、現実と幻想との間の境界線を揺るがす独特な世界観にその特徴がある。従って、その作品を読解することは必ずしも容易ではないが、ひとたびその魅力の一端に触れれば、その難解さがかえって強烈な魅力へと反転しうる。この授業では、難解さを魅力へと転ずるための道筋として、作品の基底にある語りの構造に注目することになるため、語り論(ナラトロジー)に関する知見は必須となる。授業では、ナラトロジーの観点に基づいて進展著しい先行研究の成果を踏まえつつ個々の作品を精読する作業を通して、文学作品に関する分析力に磨きをかけることが重視される。取り上げる作品としては、「夜行巡査」「外科室」「琵琶伝」「海城発電」「龍潭譚」「化銀杏」などの初期作品から、「化鳥」「高野聖」といったしばしば代表作に数え上げられる作品のみならず、「三尺角」「木精(三尺角拾遺)」「春昼」「春昼後刻」などといった作品群を扱い、精読作業をベースに参加者全員による発表と討議を行う。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>演習発表、出席、授業中の発言(回数、内容など)、期末レポートなどにより、総合的に判断する。</p>	

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【曜日】月曜
【時限】4限	
【教員名】岡崎 直也	
【テーマ】堀 辰雄の文学	
<p>(演習内容)</p> <p>堀辰雄は、非人称の客観的視点で各作中人物の深層心理を明晰に分析する「聖家族」で主語なし日本語構文の特徴を生かし、固定するはずの視点を〈婉曲表現〉の多用で各作中人物の傍らに寄り添わせつつ経験の切実さを掬い上げた。</p> <p>しかし堀は、叙述による小説の全知的な統御への不信から『美しい村』『風立ちぬ』において、小説を書く行為自体を一人称で小説に書く、いわゆる〈小説の小説〉の試みを繰り返す。主人公〈私〉の生が、同一人物である小説家〈私〉によって表現され、また逆に、その小説家〈私〉の創作行為が同一人物である主人公〈私〉によって生きられる、といった互いを問ひ直す円環を仕組み、小説家が向き合う現実と、それから創りあげようとする世界との相剋を丹念に追究したのであった。</p> <p>その後、多人物が交渉する〈ロマン〉を書くべく堀は「菜穂子」で非人称の客観的視点を再び採用するが、心理分析を排し、場面ごとに異なる作中人物に寄り添った心理や無意識の描写と、汎神論的な自然描写とによって、叙述の全知的な統御を慎重に避ける。モダニズム文学の推進者であった堀は、一方で古人の生活に学びながら王朝小説を書きつぎ、自然描写と照応する身体感覚によって〈生〉を実感する「曠野」を執筆した。主人公の女の心理は、叙述による断定とそこから幽かに逸れる内心の吐露とのあいだを揺らぐままに提示されている。</p> <p>作品ごとに発表グループを作り、本文批評・注釈・研究史・鑑賞などの整理をもとに順次発表させ、提起された問題点について教員・学生相互の活発な質疑応答を図りたい。</p>	
(評価方法)	
平常点 60%〔発表・授業時小レポート・質疑応答〕、単位レポート 40%	

日本文学科 現3年生対象

令和5年度開講「演習」仮シラバス

【日本語学演習】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる可能性があります。

科目名	担当者	曜日	時限	ページ
日本語学演習Ⅱ	仁科 明	月	4	16
日本語学演習Ⅱ	富岡 宏太	月	4	16
日本語学演習Ⅲ	吉田 永弘	木	6	17
日本語学演習Ⅲ	諸星 美智直	木	3	17
日本語学演習Ⅲ	三井 はるみ	火	6	18

【日本語学演習Ⅱ】

【科目名】日本語学演習Ⅱ	【曜日】月曜
	【時限】4限
【教員名】仁科 明	
【テーマ】中古日本語の研究	
<p>(演習内容)</p> <p>ことば（語彙や語法）に注目しながら、中古（八代集）の和歌を読んでいく。注釈類を参考にしつつ、そこで用いられていることばが、古代の和歌や散文作品においてどのように用いられていたのか、各種索引類も利用しながら確認しつつ、理解を深め、解釈を確定していきたい。</p> <p>毎回、発表者と司会者（発表へのコメント担当）を決めて、両者を中心に、参加者の意見も求めながら議論し、読み進めていく予定（分担は学期のはじめに決定する）。発表資料は発表の前週までに配布することとするので、担当者以外も目を通して、発言できるようにしておくこと。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>授業への参加（発表・質疑など）・50%、レポート50%。</p>	

【科目名】日本語学演習Ⅱ	【曜日】月曜
	【時限】4限
【教員名】富岡 宏太	
【テーマ】中古日本語の研究	
<p>(演習内容)</p> <p>源氏物語を主な資料として、中古日本語の研究を行う。</p> <p>最初に教員が調査や発表の方法について数回にわけて解説した後、受講生による問題設定、調査・考察、発表を行なう。</p> <p>この演習では、主に、文法形式や語彙、類義表現、言語行動などについて、以下の方法を中心に考えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中古語の複数の形式や表現をくらべることで、それぞれについて明らかにしていく方法 ・中古語と現代語とにおける類似形式や表現を対照することで、両言語における特徴を明らかにしていく方法 <p>以上を通して、比べて考えることの大切さや、さまざまな「日本語」の一つとしての中古語の特徴に、気づけるようになってほしい。</p> <p>受講者の人数にもよるが、前期に1つのテーマ、後期にもう1つ別のテーマで発表をしてもらう予定である。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表内容及び質疑応答の積極性（50%）、レポート（50%）</p>	

【日本語学演習Ⅲ】

【科目名】日本語学演習Ⅲ	【曜日】木曜
	【時限】6限
【教員名】吉田 永弘	
【テーマ】中世日本語の研究	
<p>(演習内容)</p> <p>キリシタン資料の『天草版平家物語』をとりあげて、中世末期の日本語を学習する。はじめに担当教員が演習の方法を解説した後、各自担当箇所の調査・報告を行う。発表を経て、問題点をさらに追究し、レポートにまとめる。</p> <p>以上の作業を通して、中世日本語が古代語から近代語への流れの中にあることを理解しながら、日本語の史的研究の方法を身につける。あわせて、発表する力・レポートを作成する力を養う。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表 50%、レポート 50%。</p>	

【科目名】日本語学演習Ⅲ	【曜日】木曜
	【時限】3限
【教員名】諸星 美智直	
【テーマ】ⅢA ビジネス言語学（文書・会話の語彙・語法）とⅢB 近代敬語の研究	
<p>(演習内容)</p> <p>少子化とグローバル化により異文化共生の時代となりつつある現代社会で生き抜くためには、教職に関しては国語教育と日本語教育の両方に対応できる人材、企業については国際交流を視野に入れた経済活動に役立つ言語能力を習得することが就職力を強めることになる。そこで、ⅢA [前期] は、現代のビジネス文書及び経済小説・企業ホームページを資料として、ビジネス敬語・語法・語彙を中心に①通時的、②共時的、③対照言語学的、④ポライトネスなどの方法によって、例えば「～いただけますようお願い申し上げます」のような揺れ動くビジネス敬語の実態を解明する。ⅢB [後期] は近代日本語（近世～現代）の研究テーマの概要を述べた後、近代の小説・速記録・日本語教科書等を資料として、近代敬語の変遷を分析する。日本文学科の就職先としてサービス・卸・小売りが多く、また就活支援に力を入れている金融・製造・公務員等の進路に益することを考慮して、敬語研究を重視するとともに実践的な業界・企業研究を兼ねた就活に強い「ビジネス言語学」の構築を目指している。これは同時に日本語教育学における学習者の主要なニーズでもある。前・後期とも、講座担当者による解題と先行研究の紹介のあとは、受講者による研究発表の形式で進めて行くので、活発な質疑応答の場となるよう望む。なお、随時、日本語学・日本語教育学の関連学会の情報を紹介する。卒業論文の履修者には履修を勧める。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表・質疑（20%）・単位レポート（80%）による。</p>	

【科目名】日本語学演習Ⅲ	【曜日】火曜
	【時限】6限
【教員名】三井 はるみ	
【テーマ】社会言語学文献講読と調査研究	
<p>(演習内容)</p> <p>新語・新用法、ことばのジェンダー差、ことばの「誤用」、ネーミングなど、身の回りのことばをめぐるトピックは、興味深い話題として人々の関心を引きつける。一方で、そのような目に付く現象を、言語的、社会的背景の中で理解し、読み解くためには、一定の手順によるデータの収集とその分析が必要となってくる。本授業では、主として社会言語学的なテーマについて、研究対象の設定、先行研究の探索、資料、データ収集法、分析法など、言語研究に必要な方法論を学ぶ。前期は論文講読。指定した研究論文を受講者各自が担当し、報告・討論を行う。後期は小研究発表。各自がテーマを定めて小調査を行い、発表する。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表内容とレポートによって評価する。発表は前後期各1回担当し、それぞれについてレポートを提出する。</p>	

日本文学科 現3年生対象
令和5年度開講「演習」仮シラバス
【伝承文学演習】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる可能性があります。

科目名	担当者	曜日	時限	ページ
伝承文学演習Ⅱ	飯倉 義之	金	4	20
伝承文学演習Ⅱ	八木橋 伸浩	水	2	20
伝承文学演習Ⅱ	菊池 建策	火	5	21
伝承文学演習Ⅲ	大石 泰夫	金	3	22
伝承文学演習Ⅲ	松尾 恒一	木	2	23
伝承文学演習Ⅲ	高久 舞	水	2	24
伝承文学演習Ⅲ	鈴木 明子	金	6	24
伝承文学演習Ⅳ	大楽 和正	火	6	25
伝承文学演習Ⅳ	伊藤 慎吾	月	5	25
伝承文学演習Ⅳ	服部 比呂美	金	3	26

【伝承文学演習Ⅱ】

【科目名】伝承文学演習Ⅱ	【曜日】金曜
	【時限】4限
【教員名】飯倉 義之	
【テーマ】現代の伝承・都市民俗を調査・研究する	
<p>(演習内容)</p> <p>伝承文学や民俗学は、わたしたちとは関りの薄い、遠い過去の生活の中に存在するものと思われがちですが、しかし「民俗」や「伝承文学」は、いま・ここを生きるわたしたちの生活の中にも見出すことができるものです。</p> <p>この演習では、いま・ここにおける民俗・伝承文学を発見し、考察するための調査法・研究方法を論文講読と演習発表を通して学びます。</p> <p>卒業論文履修者（指導教員は問いません）の受講を優先します。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>授業時発表（40%）前期・後期1回以上。発表内容のほか、レジュメや発表の構成も評価します。</p> <p>レポート（40%）授業時の発表を元にしたレポートを提出してもらいます。</p> <p>受講姿勢（20%）コメントペーパーに、発表への感想・質問を記入してもらいます。</p>	

【科目名】伝承文学演習Ⅱ	【曜日】水曜
	【時限】2限
【教員名】八木橋 伸浩	
【テーマ】現在学としての民俗学の実践的演習	
<p>(演習内容)</p> <p>ことば・行為・感覚・形象によって超代的に伝達・継承されてきた様々な民間伝承を素材に、日本の民俗文化の本質を把握し理解するため、受講生は各自の問題意識に沿って自らが設定した研究テーマについて資料収集・調査研究を行ない、その分析内容や結果について発表・討議を行なう。</p> <p>単に事典類や概説書などによる概要説明では本演習の要件は満たさない。原則として前期は文献調査を中心とした発表を行ない、後期はフィールド調査を踏まえた分析を加味して研究を深化させていく。</p> <p>研究テーマは限定しないので、自身が関心を持つ素材をとおして民俗研究の方法を実践的に学びながら、現在学としての可能性に迫ってほしい。</p> <p>卒業論文の作成と関わらせての受講も大いに歓迎する。</p> <p>※近年、受講生が研究テーマとした素材の例：人身御供、聖地巡礼、妖怪、鬼、オシラ様、狼、稲荷、博多祇園山笠、剣舞、イタコ、能、コトヨウカ、盆、ダルマ供養、語り部、時間、闇、異類婚姻譚、おわら風の盆、七夕、太鼓、神輿、山車、獅子舞、富士塚、橋、鳶、神酒口、握り飯、仙台四郎、シーサー……etc.</p>	

<p>(評価方法)</p> <p>前期・後期の各発表内容 (75%)、質疑応答など授業への参加度 (15%)、出席点 (10%) を総合的に判断し、平常点で評価を行なう。特に発表をめぐる討議へ積極的に参加しているか否かを重視する。</p>

【科目名】 伝承文学演習 II	【曜日】 火曜
	【時限】 5 限
【教員名】 菊池 建策	
【テーマ】 記録から読み取る生活	
<p>(演習内容)</p> <p>本演習では、普通の人々が書き記した日記等を通して人々の旅のあり方や暮らしぶり等を探ってゆきます。演習では地域に残された「伊勢参宮道中記」等をテキストとして使用し、人々が旅において何に注目したのか記述された内容から考え発表してもらうこととします。</p> <p>授業では「伊勢参宮道中記」だけではなく、類似の道中記や日記類をあわせ見ながら考察を深めてゆきたいと思います。</p> <p>この演習を通じて人々の旅のあり方や目的を考えるきっかけとなること、さらには記された内容について実地で確認し、記した人々の暮らしや行動について考える機会にしてもらえればと思います。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表 70 分 発表内容のほか、レジュメの構成、発表態度も評価する</p> <p>授業参加の姿勢 30 分 授業時間における質疑応答等授業参加の姿勢も評価対象とする</p> <p>出席状況も考慮する</p>	

【伝承文学演習Ⅲ】

【科目名】伝承文学演習Ⅲ	【曜日】金曜
	【時限】3限
【教員名】大石 泰夫	
【テーマ】祭りと民俗芸能についての研究方法を学ぶ	
(演習内容)	
(演習内容＝前期)	
「民俗芸能とは何か」さらに根源的に「芸能とは何か」ということから始めて、具体的に現在日本全国各地に伝承されている民俗芸能を取り上げ、その研究方法について受講者の発表・討議を交えて考えたい。	
まず、芸能の発生、日本の芸能の歴史について具体的に論文を講読し、民俗芸能を見ながら考える。	
芸能についての卒業論文作成を希望する者は履修することを推奨する。	
(演習内容＝後期)	
「民俗芸能とは何か」さらに根源的に「芸能とは何か」ということから始めて、具体的に現在日本全国各地に伝承されている民俗芸能を取り上げ、その研究方法について受講者の発表・討議を交えて考えたい。受講者がそれぞれ具体的に民俗芸能を選んで調べ、発表する形式をとって、受講者の調査が研究へと展開することを目指したい。	
祭りや芸能についての卒業論文作成を希望する者は履修することを推奨する。	
(評価方法)	
授業時発表 (40%) 発表内容・用意した資料・発表の態度が評価の対象。	
レポート (40%) 授業時の発表を元にしたレポートを評価する。	
受講姿勢 (20%) コメントペーパーへの記入 (授業の理解度・質問) も評価する。	

【科目名】 伝承文学演習Ⅲ	【曜日】 木曜
	【時限】 2 限
【教員名】 松尾 恒一	
【テーマ】 祭礼・芸能文化、年中行事、民間信仰・民俗宗教の調査と研究法	
<p>(演習内容)</p> <p>わが国の祭礼・芸能文化、家や町村の年中行事、及び、これらと関連の深い民俗宗教、信仰を考究するための調査法を学ぶ。</p> <p>前者については、夏の祭礼の典型ともなった京都祇園祭、御霊信仰を出発点として、各地の都市祭礼を扱い、祭りと風流、熱狂、暴力といった側面について考える。あわせて、念仏踊り・風流踊りから、かぶき踊り・盆踊りへの分化と諸地域の民俗事例について考察する。</p> <p>後者については、イタコ・山伏・民間陰陽師、琉球地域の女性宗教者（ノロやユタ）等、民間の宗教・芸能と、その担い手となった人々の生活や社会的な側面について考える。芸能や祭儀・呪術の習得のための修行や、差別・被差別や、漂泊といった側面について注目してゆくことになる。関連の民俗として、民間に伝承される冬から春の間の諸地域の神楽についても注目するが、古代における鎮魂呪術としての神楽をも考慮しつつ、地域によっては、病人祈祷や、狩猟における動物霊の鎮魂等の祭儀へと神楽が展開していったこと、その伝承を考えてゆきたい。</p> <p>前期は、主として先行研究について、論述の根拠となる資料や、調査の特質について考えてゆく。</p> <p>後期は、実際のフィールド調査に基づいての、現在の伝承の実態と特質を考察する。</p> <p>伝承を考える上で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人（伝承者や伝承組織、生業や生活） ・時間（行事や祭儀の内容、準備から終了までの進行） ・空間（祭儀の空間・地域、自然環境） <p>を文字や図解・画像・映像を用いて記録し、明らかにすることが基本となるが、そのほか、祭礼・芸能に特有な、音楽や身体所作、仮面・装束、楽器等のモノ資料からの分析を学ぶ。さらに、その歴史的变化、変容を解明し、理解するための文献・絵画資料を読み解くことも目標とする。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>口頭発表 70%(事前指導 20%+当日発表 40%)、またはフィールドワークレポート 70% + 平常点(出席・授業時課題等)30% + α (自主フィールドワークレポート等) により評価する。発表のためには、早め（最低でも3週間以上前から）の準備が望ましい。</p> <p>特に、後期の発表者は、夏季休暇中以降のフィールドワークに基づく報告と発表となる。自主的なフィールドワークレポートにも期待し、評価に加える。</p> <p>なお、コロナウィルス等のため on-line による授業となった場合には、on-line と教室での授業等の内容と、割合を勘案して評価の方法を決定する。</p>	

【科目名】 伝承文学演習Ⅲ	【曜日】 水曜
	【時限】 2 限
【教員名】 高久 舞	
【テーマ】 民俗芸能研究の方法の修得と民俗芸能の現代的課題を考える	
<p>(演習内容)</p> <p>本演習では民俗芸能研究の方法を学び、その学びを通して民俗芸能の現代的課題について考える。</p> <p>受講生は具体的な民俗芸能を一つ選び、1年を通してその民俗芸能を調査研究する。対象とする民俗芸能は、現在伝承されているものを原則とする。</p> <p>前期では、対象とする民俗芸能の何を問題として、何を明らかにしたいのかを考えるため、先行論文を購読し発表を行う。</p> <p>後期では、対象とする民俗芸能に沿った研究方法（他地域との比較、歴史的変遷など）を見つけ、発表する。なお、後期にはこれまで研究してきたことを踏まえ、現在の民俗芸能の課題についてグループディスカッションを行う。</p> <p>発表・討議を通して、現在の民俗芸能について多角的なアプローチから考えていきたい。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>前期：発表内容および発表を元にしたレポート（レジュメ作成、学期末レポート）60% 授業への取り組み（質疑応答、討議への参加姿勢）40%</p> <p>後期：発表内容（問題設定、発表の構成、発表態度など）40% 授業への取り組み（質疑応答、討議への参加姿勢）20% グループディスカッションへの取り組み（議論の姿勢）20% グループ発表（発表の構成、発表態度など）20%</p>	

【科目名】 伝承文学演習Ⅲ	【曜日】 金曜
	【時限】 6 限
【教員名】 鈴木 明子	
【テーマ】 絵図資料に見る芸能と伝承	
<p>(演習内容)</p> <p>近世の絵図資料には、多くの芸能が描かれている。描かれた芸能の中には、現代の民俗芸能や行事にその痕跡をとどめるものもある。</p> <p>前期は、絵図に描かれている芸能を一つ選択し、資料を集めて、芸能の特徴について考察し、発表してもらう。後期は、前期で発表した絵図に見られる芸能が、民俗芸能や行事などの中に痕跡をとどめている事例を渉猟し、発表してもらう。今年度も引き続き基礎的な絵図資料として『人倫訓蒙図彙』巻七「勸進鯛部」を用いる予定である。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>理由なく三分の一以上欠席した場合は単位を認めない。</p> <p>前・後期ともに、最低各一回ずつの発表内容とディスカッションに取り組む姿勢で評価する。</p> <p>後期は、前期の発表内容をあわせて作成したレポートも踏まえての評価となる。</p>	

【伝承文学演習Ⅳ】

【科目名】 伝承文学演習Ⅳ	【曜日】 火曜
	【時限】 6 限
【教員名】 大楽 和正	
【テーマ】 民俗研究の方法—比較研究法を修得する—	
(演習内容)	
庶民生活の歴史的展開を明らかにするうえで、それらを記録した文献資料は欠かせない。本演習では、近世・近現代の文献記録を素材にして、民俗の比較研究の方法を修得することを目的とする。	
前期は『日本庶民生活資料集成』に収録された「諸国風俗問状答」や「菅江真澄遊覧記」などを一次資料として、各自の関心にもとづいたテーマを設定し、研究発表と討議を行う。	
後期は同様に「日本民俗地図」や「市町村史」などを使って比較研究を深める。民俗研究の基本的な作業を経験することで、卒業論文作成の方法を学ぶことにもなる。	
(評価方法)	
平常点。発表内容・発表資料（80%）、積極的な質疑応答等の授業参加度（20%）を評価基準とし総合的に判断する。	

【科目名】 伝承文学演習Ⅳ	【曜日】 月曜
	【時限】 5 限
【教員名】 伊藤 慎吾	
【テーマ】 伝説・怪異伝承と地域社会	
(演習内容)	
伝説は、特定の地域の歴史や社会、信仰などと密接に関わりながら伝承されてきた。妖怪を中心とする怪異の伝承も、河童淵や天狗の棲む山など、特定の場所を対象として語られることが多い。	
ところが今日はそうした伝承の社会的意義が変化していき、たとえば観光との関わりから地域振興のコンテンツとしての価値が付加されるケースも少なくない状況にある。	
当演習では、各自が特定の地域に伝承されてきた伝説や怪異について、調査・考察して口頭報告を行ってもらおう。	
(評価方法)	
レポート 30%	
平常点 70%（プレゼンテーションと質疑応答）	

【科目名】 伝承文学演習Ⅳ	【曜日】 金曜
	【時限】 3 限
【教員名】 服部 比呂美	
【テーマ】 民俗の比較研究法を学ぶ	
<p>伝承資料を収集し、実態（事実）把握、自らの視点からの分析、考察という比較研究の方法を習得することを目的としている。</p> <p>卒業論文を執筆する学生にとっては、具体的に分析方法を学ぶ機会である。</p>	
<p>（演習内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期は、文化年間の「諸国風俗問状答」を資料として用いる。年中行事や儀礼など、受講者が課題を決め、「諸国風俗問状答」から該当箇所を抽出し、比較研究を行って、この結果を発表する。たとえば正月の門松が課題であれば、秋田から熊本までの約 20 地域の門松のあり方を確認し、用いられる樹木や供え物の違いなどを発表する。 ・後期は、受講生が関心のあるテーマについて「市町村史」や「日本民俗地図」の資料集などから伝承資料を収集し、オリジナルデータデータを作成する。ここから比較研究を行い、自ら新たな発見をするという喜びを知ってほしい。 ・卒業論文を履修している学生は、後期の演習内での発表も可能である。 	
<p>（評価方法）</p> <p>平常点。発表資料、発表内容で評価する。</p>	

日本文学科 3 年生対象

令和 5 年度開講「演習」仮シラバス

【専攻外演習科目】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる可能性があります。

科目名	担当者	曜日	時限	ページ
日本語教育学演習 I	菊地 康人	月	2	28
日本語教育学演習 II	菊地 康人	金	6	28
言語学演習	諸星 美智直	火	6	30
言語学演習	新井 小枝子	火	2	30
表現文化演習 II	野村 ひかり	金	5	32
表現文化演習 III	川口 晴美	木	3	32

【日本語教育学演習】

【科目名】 日本語教育学演習 I	【曜日】 月曜
【時限】 2 限	
【教員名】 菊地 康人	
【テーマ】 日本語教育を通して日本語を見つめる	
<p>(演習内容)</p> <p>〈日本語教育の入門的な知識を体系的に身につける〉ことと、〈日本語教育の学習を通して日本語そのものを見つめ直し、日本語について新たな発見をしながら、ことばを観察・分析する目を養い、ことばの魅力を改めて感じる〉ことを、2つの大きな柱とする。具体的には、日本語の初級教科書を本講のメインテキストとし、各課の趣旨（その課で教えたこと・学んでもらいたいことは何か、教科書はなぜそのようにできているかなど）や、日本語の授業でのその扱いを考え、いくつかの文法項目を日本語学的／日本語教育的に（両面に触れつつ）分析することを中心に据える演習を考えている。広い意味では日本語学的な授業の一種であるが、〈日本語学習者の目で日本語を見る〉とか〈日本語学習者のための文法〉という面がしばしば出てくるので、新たな切り口に接し、新鮮に感じてもらえるであろう。一部は、実際にどう教えるかにも時間を割きたい（教案を書いたり実演したりしてもらって改善を図る）。</p> <p>「毎回1～2人だけが大きな課題を課せられて臨む」というタイプの普通の演習の方式ではなく（日本語教育の場合、学生諸君の予備知識がそれほど十分ではないので、このやり方は難しいと思う）、「毎回、当方が事前課題を課し、その答を各自全員が準備した上で臨む」という演習の方式を採る予定。毎回の準備に必要な時間は40～80分程度を想定している。</p> <p>「日本語教育学演習Ⅱ」（金6）とは、目標・趣旨は同じだが、具体的な内容・題材（扱う課）はできるだけ重複しないように差別化し、どちらを受講しても、上記の目標・趣旨が満たされるようにするつもりである（内容が違うので両方受講することもあってよい）。どちらかという、Ⅱのほうは、これまで日本語教育関係の授業を半期以上受けた（未習でない）学生を想定し、本講Ⅰのほうは、その要件を課さない授業とする予定である。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>平常点（出席と日々の授業への取り組み）50%＋レポート（授業内容の理解度を見るものと、ある程度自由度の高い課題と、両方を少しずつ課す予定）50%</p>	

【科目名】 日本語教育学演習 II	【曜日】 金曜
【時限】 6 限	
【教員名】 菊地 康人	
【テーマ】 日本語教育を通して日本語を見つめる	
<p>(演習内容)</p> <p>〈日本語教育の入門的な知識を体系的に身につける〉ことと、〈日本語教育の学習を通して日本語そのものを見つめ直し、日本語について新たな発見をしながら、ことばを観察・分析する目を養い、ことばの魅力を改めて感じる〉ことを、2つの大きな柱とする。具体的には、</p>	

日本語の初級教科書を本講のメインテキストとし、各課の趣旨（その課で教えたこと・学んでもらいたいことは何か、教科書はなぜそのようにできているかなど）や、日本語の授業でのその扱いを考え、いくつかの文法項目を日本語学的／日本語教育的に（両面に触れつつ）分析することを中心に据える演習を考えている。広い意味では日本語学的な授業の一種であるが、〈日本語学習者の目で日本語を見る〉とか〈日本語学習者のための文法〉という面がしばしば出てくるので、新たな切り口に接し、新鮮に感じてもらえるであろう。一部は、実際にどう教えるかにも時間を割きたい（教案を書いたり実演したりしてもらって改善を図る）。

「毎回1～2人だけが大きな課題を課せられて臨む」というタイプの普通の演習の方式ではなく（日本語教育の場合、学生諸君の予備知識がそれほど十分ではないので、このやり方は難しいと思う）、「毎回、当方が事前課題を課し、その答を各自全員が準備した上で臨む」という演習の方式を採る予定。毎回の準備に必要な時間は40～80分程度を想定している。

「日本語教育学演習Ⅰ」（月2）とは、目標・趣旨は同じだが、具体的な内容・題材（扱う課）はできるだけ重複しないように差別化し、どちらを受講しても、上記の目標・趣旨が満たされるようにするつもりである（内容が違うので両方受講することもあってよい）。どちらかという、本講Ⅱのほうは、これまで日本語教育関係の授業を半期以上受けた（未習でない）学生を想定し、Ⅰのほうは、その要件を課さない授業とする予定である。

（評価方法）

平常点（出席と日々の授業への取り組み）50%＋レポート（授業内容の理解度を見るものと、ある程度自由度の高い課題と、両方を少しずつ課す予定）50%

【言語学演習】

【科目名】言語学演習	【曜日】火曜
	【時限】6限
【教員名】諸星 美智直	
【テーマ】福祉言語学（ⅢA手話とⅢB点字）の研究	
(演習内容) 2016年4月1日、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)の施行により障害を理由とする差別の解消が公的機関・企業を問わず求められる新たな時代になった。ということは、教職・企業・公務員・研究職などあらゆる分野にわたって障害者とコミュニケーションできる人材がますます必要な時代になったということである。これに関わる言語の研究としては、まず、手話と点字が挙げられる。この演習では手話と点字を言語研究の対象として研究する方法を模索することで就職力と研究能力を養う。そこで、前期は、各種手話辞典を資料として、辞書学・語彙・手話史・手話方言などの視点から、各自手話語彙についてテーマを設定して、例えば「酒」は辞書によって指の数・おチョコの返し方・額をポンと打つか否か、また酒の種類など調査して順次発表する。後期は、まず一通り点字のかな・数字・記号などを学習したあと、近代の点字書籍を対象に受講者に担当範囲を割り当てて解読し順次発表する。前期・後期とも未開拓であり同時に将来性のある分野なのでアイデアを出し合い調査することを望む。なお、随時、手話・点字の関連学会の情報を紹介する。卒業論文の履修者には履修を勧める。	
(評価方法)	
発表・質疑(20%)・単位レポート(80%)による。	

【科目名】言語学演習	【曜日】火曜
	【時限】2限
【教員名】新井 小枝子	
【テーマ】方言語彙の記述と考察	
(演習内容) 日本語方言における語彙に注目します。方言語彙の中から、自身が日ごろ気になっている「一語」を取り上げて、以下の観点から説明してみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ①なぜその語が気になるのか。 ②どこで使われている語なのか。 ③どのような人が使っている語なのか。 ④どのような意味用法をもっている語なのか。 ⑤どのような造語発想法にもとづいている語なのか。 ⑥どのような歴史をたどってきた語なのか。 など 友人や家族にインタビューしたり、方言辞典をはじめとする方言資料にあたったりしながら、語の具体的な使用方法を収集してデータを蓄積します。さらにそのデータを整理して、わかったことを説明します。その過程では、データが語りだすことのおもしろさや、新たな	

疑問が生ずることの楽しさを実感できると思います。

(評価方法)

- レポート (40%) テーマが的確に設定できたか。設定したテーマに対する調査、データ収集、および分析が的確に行えているか。レポートしての形式が的確に整えられているか。
- 平常点 (60%) 自身の口頭発表とそれに対する質疑への応答。クラスメイトの口頭発表に対する質疑応答への参加。

【表現文化演習】

【科目名】表現文化演習Ⅱ	【曜日】金曜
	【時限】5限
【教員名】野村 ひかり	
【テーマ】漢字書道—名品の表現を学ぶ—	
<p>(演習内容)</p> <p>漢字書道における五つの書体（篆書・隸書・楷書・行書・草書）と、書風について、さまざまな名品を臨書することで理解していきます。</p> <p>自身の個性を生かすにはどの名品を学ぶべきか、自身が求める美しさを追求するにはどの名品を学ぶべきか、ひとりひとり考えていきます。</p> <p>選んだ名品についてのレポート作成と、名品の表現を用いた創作作品を制作します。</p> <p>書道用具持参のこと。</p> <p>初心者可。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>毎時間の取り組み</p> <p>レポート、作品等</p>	

【科目名】表現文化演習Ⅲ	【曜日】木曜
	【時限】3限
【教員名】川口 晴美	
【テーマ】日本語で書かれたさまざまな詩を読み、自分でも詩を書く。	
<p>(演習内容)</p> <p>詩を読むことを楽しみながら、言葉の働きを知り、表現方法についての考えを深める。自分なりの感想を言語化してやりとりするなかで読解の方法を学ぶ。</p> <p>自分でも詩を書いて発表し、講評を受ける。</p> <p>遠隔授業となった場合は、〈授業資料公開→課題提出〉によって進める。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>平常点。</p> <p>資料の詩や他学生の作品を積極的に読み、自分なりの読解を言語化して伝えられたか。</p> <p>自作の詩を書いて提出できたか。その作品としての完成度は十分なものだったか。</p>	